

注:①近世前のもの(\*印) ②火球であることが不確かなもの(\*印)稲光りの可能性のあるもの(\*\*印) ③音のした記録のあるもの(\*印)

MN	①	②	③	年月日	n	時刻	図 n	本体を 見たか?	みかけの形や大き さや爆発分裂	尾や痕や色	音	備考
1	*			1171.02.29 承安元年正月廿三日	1	夜			車輪			
2	*		*	1465.10.03 寛正六年九月十三日	1						雷	
3	*			1471.01.21-1472.02.08 文明三年	2							
4	*			1522.01.22 大永元年年十二月廿五日	2							
5	*			1544.04.11 天文十三年三月十九日	1							
6	*			1558.12.24 永禄元年十一月十五日	1	辰						
7	*			1560.08.24 永禄三年八月三日	1							
8	*			1586.02.19-1587.02.07 天正十四年	1	夜四ツ						
9				1605.04.10 慶長十年二月廿二日	2	夜五ツ						
10				1610.11.21 慶長十五年十月六日	1							
11				1613.10.31 慶長十八年九月十八日	2	朝						
12				1614.06.16 慶長十九年五月九日	1							
13				1614.10.04-11.01 慶長十九年九月	1	暮六時分						
14				1624.06.14 寛永元年四月廿九日	3	夜						
15				1628.07.27 寛永五年六月二十六日	1							
16				1628.08.24 寛永五年七月二十五日	1	暁			笠			
17				1649.07.24 慶安二年六月十五日	1	夜五ツ			けまり			
18		*		1652.10.10 承応元年九月八日	2	戌			天目火花	跡	石ひや・雷・鉄を焼き水に入れた如く	
19				1656.02.18 明暦貳年正月廿三日	1	夜		不見				赤き雲 長三丈巾三寸
20				1658.12.3 万治元年十一月九日	1	戌						
21		*		1660.02.15 万治三年一月五日	2	夜四つ			ゆず		鳴る	震動
22				1660.02.17 万治三年一月七日	1				家			このほか以前ひかりもののおお
23	**			1662.06.18 寛文二年五月三日	1							雷の可能性あり
24	**			1664.12.21 寛文四年十一月四日	1							雷の可能性あり
25				1666.06.28 寛文六年五月廿六日	12							人の形
26		*		1668.08.19 寛文八年七月十二日	2						雷	
27		*		1669.04.11 寛文九年三月十一日	10						雷	天狗星
28				1669.08.04 寛文九年七月八日	1						雷	
29				1669.08.07 寛文九年七月十一日	2							2例のもう一例は七月十二日
30				1669.12.28 寛文九年十一月六日	1	暁						火星
31				1670.07.13 寛文十年五月廿六日	1	晩六つ						
32				1670.08.28 寛文十年七月十三日	1	夜に入りて闇	1					
33				1671.11.04 寛文十一年十月三日	1							
34				1675.01.30 延宝三年一月五日	1	夜						
35	*	*		1675.02.14 延宝三年一月廿日	1	夜		不見			未申どろどろと二度鳴る	光物と評判
36	*	*		1676.12.09 延宝四年十一月五日	1	夜		不見			南に雷ひびく	光物ともいふ説
37		*		1680.09.25 延宝八年閏八月三日	1	暮れ前					夥しく鳴る	
38				1682.06.26 天和二年五月廿一日	1	夜五ツ						
39		*		1685.03.26 貞享二年二月廿二日	30	夜五ツ半頃			三つ?		暫して雷	
40		*		1685.03.29 貞享二年二月廿五日	2	夜					雷	
41				1685.04.25 貞享二年三月廿二日	3	戌						天狗星
42				1686.03.16 貞享三年二月廿二日	2				琵琶	尾青		天狗星
43		*		1686.03.20 貞享三年二月廿六日	1	酉下刻				熱湯五盃程のミ申 間消不	鉄砲十挺も放程	地雷のごとく火事かと皆人 驚、雉鳥多く鳴
44				1687.01.08 貞享三年十一月廿五日	1							
45		*		1687.04.03 貞享四年二月廿一日	1	丑刻					鳴動	
46				1690.04.11 元禄三年三月三日	2							
47				1691.07.03 元禄四年六月八日	1	暮六ツ						
48				1692.03.20 元禄五年二月三日	1							
49		*		1692.06.15 元禄五年五月朔日	2				ほうろく		あとに音	
50				1692.08.20 元禄五年七月九日	1							
51				1692.09.05 元禄五年七月廿五日	1							
52	**			1694.06.19 元禄七年五月廿七日	1	暮れ前						雷の可能性あり
53				1694.08.21-09.18 元禄七年七月	1							
54		*		1695.03.28 元禄八年二月十四日	1	夜五ツ					雷	
55				1697.01.27 元禄十年正月五日	1	亥ノ刻						
56		*		1699.03.02 元禄十二年二月朔日	1						鳴動	
57		*		1701.03.06 元禄十四年正月廿七日	1	夜五ツ	1		三つ		雷	
58		*		1703.11.09 元禄十六年十月朔日	1	晩四ツ過				尾のような跡が半 時程残る	一時程過ぎて雷 鳴	
59		*		1703.12.15 元禄十六年十一月七日	1	暮六ツ		不見			百雷	
60				1704.01.05 元禄十六年十一月廿八日	1	昼過ぎ						
61				1704.01.06 元禄十六年十一月廿九日	1	夜五ツ						
62	**			1704.02.14 元禄十七年正月十日	1	夜						雷による稲光りの可能性もある
63		*		1704.02.15 元禄十四年正月十一日	1	暁					鳴動	浜松市の笹ヶ瀬隕石の一日
64				1704.04.04-05.03 元禄十七年三月	1							
65				1704.05.21 宝永元年四月十八日	1	夜五ツ						
66				1704.06.09 宝永元年五月八日	1							
67	*			1704.07.23-25 宝永元年六月廿二日廿三日廿四	2							光り物の噂
68		*		1706.12.29 宝永三年十一月二十五日	1						未申の方鳴る	
69		*		1707.10.20 宝永四年九月廿五日	1	昼九ツ時			錫びんのごとくなる もの式ツ		(見える前に)石火矢のごとく式ツ鳴り	
70		*		1708.04.30 宝永五年三月十日	1	申下刻					雷	

71			1709.04.07	宝永六年二月廿八日	1	夜戌刻						
72			1710.08.27	宝永七年八月三日	1	初夜時						
73			1710.09.26	宝永七年閏八月四日	1							
74			1711.09.16	正徳元年八月四日	1							
75			1713.05.31	正徳三年五月八日	1							
76			1714.12.17	正徳四年十一月十一日	3							
77			1716.11.12	享保元年九月廿九日	1	夜						
78			1717.01.10	享保元年十一月廿八日	2	夜九時						
79		*	1717.01.11	享保元年十一月廿九日	2	夜四ツ時分				足二本跡見ヘル	見へ終や否雷の如	
80		*	1717.07.09	享保二年六月朔日	2	夜		小袋之如、	通候跡青光たな		大鉄砲はなち申候ことくの音二つ	

\*「雷」は「雷の如く」の意

注:①近世前もの(\*印) ②火球であることが不確かなもの(\*印)稲光りの可能性のあるもの(\*\*印) ③音のした記録のあるもの(\*印)

MN	①	②	③	年月日	n	時刻	図	本体を見たか?	みかけの形や大きさや爆発分裂	尾や痕や色	音	備考
81				1720.08.04	享保五年七月朔日	1	戌ノ時		大サ尺余			
82		*		1720頃 (年月不詳)	1	八月夜子ノ刻			廻り三四圍長サー丈程	月影■ク成程ノ光ニテ東ノ方ニテ三ツニ大小長く分し跡ニ引き■シテ二三寸廻りも可有様ニ見へた	大ニ鳴り渡り	
83				1722.03.11	享保七年正月廿四日	1						
84				1724.02.16	享保九年正月廿二日	1						
85		**		1724.08.30	享保九年七月十二日	1						「大雷天」との記載で雷の可
86				1727.04.21	享保十二年三月朔日	1	夜五ツ時					
87		*		1728.12.11	享保十三年十一月十一日	1	夜酉刻				雷	
88				1730.06.16	享保十五年五月二日	1	夜五ツ過					
89				1730.09.05	享保十五年七月廿三日	1	夜		尾を長く引鳥の如く	色は銀の如く		
90		**		1731.03.11-04.08	享保十六年二月	1	夜					雷の可能性あり
91				1733.03.09	享保十八年正月廿四日	3	夜五ツ時					
92				1733.05.14	享保十八年四月一日	1	暮					
93				1734.05.17	享保十九年四月十五日	1	日没直後					
94				1736.05.25	享保二十一年四月十五日	1	夜					
95		*		1738.01.12	元文二年閏十一月廿二日	1	夜四つ時前				雷	
96		*		1738.03.20	元文三年二月朔日	2	晩五ツ過					震動強ク致候
97				1738.04.23	元文三年三月五日	1						
98				1738.12.11	元文三年十一月朔日	1	酉刻					
99				1739.05.01	元文四年三月廿四日	1	晩七ツ過					
100				1740.02.14	元文五年一月十七日	1						
101				1743.07.25	寛保三年六月五日	1	酉刻					
102		*		1745.03.26	延享二年二月廿四日	1	夜九ツ半時		からかさほど		雷	
103				1745.06.27	延享二年五月廿八日	1	亥刻		大さ三四間ノ丸に九尺斗続の柄の如く			
104				1746.09.04	延享三年七月十九日	1	未刻	1	大さ扇のこことく	中赤し		
105				1746.09.06	延享三年七月廿一日	1	酉刻辺		茶釜のこことく			
106		*		1748.08.05	延享五年七月十二日	3	酉刻		三尺計之円成	跡布を引様に光る	其跡如雷鳴	3例はいずれも同じ金沢
107				1748.09.21	寛延元年八月廿九日	2	宵		葉釜程の火玉二つ			
108				1750.04.24	寛延三年三月十八日	1	夜五ツ時に丑		茶釜			
109				1750.09.21	寛延三年八月廿一日	1	亥刻		菅笠のこことく			
110		*		1751.10.30	宝暦元年九月十二日	1	夜四ツ前大光					大光震動有
111		*		1752.09.28	宝暦二年八月廿一日	1	夜		光物二ツ			通常の流星か
112		*		1752.11.04	宝暦二年九月廿九日	1	夜		光物三ツ			通常の流星か
113		*		1752.11.29	宝暦二年十月廿四日	1	夜					通常の流星か
114		*		1756.03.25	宝暦六年二月廿五日	3	暮六ツ前		手鞠のこことく		少し音あり	
115				1756.11.29	宝暦六年十一月八日	1	昼七ツ時					
116				1759.04.25	宝暦九年三月廿八日	1	六半時		菓缶之大きさ			
117		*		1760.08.16	宝暦十年七月六日	3	夜五ツ時				雲中ニ入甚鳴り響	
118		*		1761.02.13	宝暦十一年正月九日	3	夜				雷	
119				1761.05.17	宝暦十一年四月十三日	1	夜					
120		*		1763.02.13-1764.02.01	宝暦十三年	1			大キサ大たい松、柴一束ほどのもの	其あとひかりニ雲式つニわれたるや	雷	
121				1764.11.09	明和元年十月十六日	2	明六ツ過		大サ老尺四五寸位	跡ハ黒く糸を引候様ニ煙之如く見得		
122		*		1766.05.27	明和三年四月十九日	1	亥刻					震動
123				1767.03.21	明和四年二月廿二日	1	酉刻					
124				1767.03.27	明和四年二月廿八日	1	丑刻					
125				1767.06.26-07.25	明和四年六月	1						
126				1767.08.18	明和四年七月廿四日	1	薄暮		五色星飛行		有声	
127		*		1770.02.03	明和七年正月八日	1	昏過					鳴渡致候ニ付、外江出見候処、岩木山中央黄色之光り物
128				1770.09.07	明和七年七月十八日	3	夜六半頃					
129				1770.09.08	明和七年七月十九日	1	夜六つ半時					
130				1771.01.24	明和七年十二月九日	1	夜		大なる光物幅老尺			
131				1771.02.14	明和七年十二月三十日	1	晩六ツ前					白雲ノ内ヨリ光物出ル、或ハ落星トモ云。通常の流星か
132				1771.05.03	明和八年三月十九日	1	夜					
133				1772.04.20	明和九年三月十八日	1	晩五ツ時分			あとへひきたる事		

134			1772.04.21	明和九年三月十九日	4	六ツ～五ツ時	1		花火之如く散	末金色		
135			1772.05.05	安永元年四月三日	1							
136			1774.05.09	安永三年三月廿九日	1	夜五ツ時						
137			1775.04.14	安永四年三月十五日	1	夜						
138			1777.10.10	安永六年九月十日	1	明六ツ時	1		傘光を落しながら			
139		*	1777.12.19	安永六年十一月廿日	1	夜					雷	
140			1779.01.05	安永七年十一月十八日	1	夜五時						
141		*	1779.02.22	安永八年一月七日	1	戌ノ刻頃					わるゝ音、雷のごとく	鳴音、二度聞へる
142		*	1779.03.19	安永八年二月二日	1	暮過					鳴渡飛	
143		*	1779.10.07	安永八年八月廿八日	1	戌の刻					雷	
144			1782.07.28	天明二年六月十九日	1	初夜						
145			1782.11.22	天明二年十月十八日	1	夜四ツ						
146	*		1783.02.14	天明三年正月十三日	1	夜						新坂之大樹の上へ星落、四
147			1783.07.25	天明三年六月廿六日	1	晩四ツ時			大キサ如火玉ノ			
148			1784.08.29	天明四年七月十四日	1	晩四ツ時						
149			1785.08.07	天明五年七月三日	1							
150		*	1787.12.06	天明七年十月廿七日	1	夜					雷	
151			1788.04.17	天明八年三月十二日	1	夜五ツ時						
152			1788.05.16	天明八年四月十一日	7	夜六半時頃	2					

\*「雷」は「雷の如く」の意

注:①近世前のもの(\*印) ②火球であることが不確かなもの(\*印)稲光りの可能性のあるもの(\* \*印) ③音のした記録のあるもの(\*印)

MN	①	②	③	年月日	n	時刻	図 n	本体を 見たか?	みかけの形や大き さや爆発分裂	尾や痕や色	音	備考
153				1788.05.17	天明八年四月十二日	1	夜五ツ過			青色成火雲		痕か
154				1788.05.23	天明八年四月十八日	1	夜					
155				1789.04.27	寛政元年四月三日	1	黄昏					
156		*		1792.08.05	寛政四年六月十八日	1	夜五つ時				跡にて鳴物夥敷	
157				1795.10.18	寛政七年九月六日	2	はん					
158				1796.02.07	寛政七年十二月廿九日	1	夜五ツ半頃					
159				1796.07.12	寛政八年六月八日	1	暮六ツ時頃					
160				1799.03.25	寛政十一年二月廿日	1	夜前四ツ時		四斗樽ほど			
161				1801.12.30	享和元年十一月廿五日	1	夕方			余光、暫く不消よ		
162		*		1805.04.12	文化二年三月十三日	1	夜				雷	
163				1806.10.18	文化三年九月七日	1	暁					
164				1807.03.22	文化四年二月十四日	1	朝六ツ半時		斗の如し			牛込辺にて落たと云
165				1807.10.04	文化四年九月三日	2	はん六つ時		鞠の如く	光り青みを帯び		
166				1807.10.09	文化四年九月八日	1	はん四つ時分					
167		*		1808.07.01	文化五年六月八日	1	はん五つ時分				雷	おとどんどんなり雷之こくとく也
168				1812.03.03	文化九年一月廿日	1	夜					
169				1812.06.22	文化九年五月十四日	1	夜六つ時頃		大サ一圍はかり	色青ク大サ一圍は		
170				1813.02.02	文化十年正月二日	1	夜明東しらミ 之節		手まりほと七ツつゝ き行			
171				1813.07.25	文化十年六月廿八日	1	夜六ツ半時頃		大サ日輪よりハ余 程小ク相見候由			
172		*		1813.12.01	文化十年十一月九日	6	朝六つ時	2	茶釜	行過る跡ハ七八寸 斗の白きはたの如 ニ尾ヲ引金色	少し雷のような 音?	図はともに見た人から聞いて 作成、千なり瓢箪の如くなる 物が次第に白くなり雲中ニ隠 レ
173				1813.12.17	文化十年十一月廿五日	1	黄昏					
174				1814.10.13	文化十一年九月朔日	1	夜九ツ時					
175		*		1815.11.03	文化十二年十月三日	3	夜半				声あり	
176				1816.01.29-03.02	文化十三年一月	1						
177				1816.02.28	文化十三年二月朔日	1						
178		*		1817.03.04	文化十四年正月十七日	1	夜五ツノ中刻		落ル時三ツニ成		雷鳴	
179				1817.07.14	文化十四年六月晦日	1	夜六つ半頃	1		色青ク光る		
180		*		1818.03.26	文政元年二月廿日	1	夜六ツ半過頃		大きさ一尺五寸程		雷	
181				1819.12.08	文政二年十月廿一日	1	夜					
182	**			1821.08.27	文政四年七月晦日	1	夜					雷の可能性あり
183				1822.11.29	文政五年十月十六日	1	亥ひとつとお	1				
184				1823.02.11-1824.01.30	文政六年	1						
185				1827.05.26-.6.23	文政十年五月	2	未の時		日月のことなる			
186		*		1827.07.01	文政十年六月八日	6	昼七ツ時過		茶釜、たいこ	ひかり物通り候跡 にけむり之ごとに	跡らしいの如き成 ひびき、ニツ	
187				1830.04.16	文政十三年三月廿四日	1	夜五ツ時分		其大キサ大椀			
188		*		1830.09.09	文政十三年七月廿三日	1	夜		大サ正油樽			をとり出るやニ見へて又引こ み、又出又さかり、三度して
189	*	*		1831.08.02	天保二年六月廿五日	1		不見			大筒ヲ打カ如キ	
190		*		1831.08.03	天保二年六月廿六日	1	夜中	不見		天ニ数条ノ光芒有 テ機ヲ懸タルカ如 シ、暫時ニシテ消 ス		
191		*		1832.05.20	天保三年四月廿日	3	暮レ六ツ				雷	
192				1832.05.21	天保三年四月廿一日	1	暮六つ時		茶わん程の丸さ、 頭につる付き			
193				1833.03.09	天保四年正月十八日	1	夜					
194				1836.09.23	天保七年八月十三日	1	昼七ツ時		大サ四斗樽の如く			
195				1836.10.13	天保七年九月四日	1	夜八ツ時	1	不見		赤光りたる雲	らせん形の雲?
196				1839.05.14	天保十年四月二日	2	夜					

197			1839.08.02	天保十年六月廿二日	1	暮六ツ半時頃			茶碗程	暫時之間跡赤くなり、余程が間、太く不迷		
198			1843.03.04	天保十四年二月四日	1	昼四ツ頃						
199			1843.07.26	天保十四年六月廿九日	1	夜半頃						
200			1843.12.28	天保十四年十一月八日	1	夕七ツ時						
201	**		1845.01.07	弘化元年十二月朔日	1	夜五ツ頃						落雷の現象の可能性あり
202		*	1845.01.21	天保十五年十二月十四日	1	夜六ツ過					雷	三才図絵を引用している
203			1845.12.04	弘化二年十一月六日	1	日暮頃	8		分裂	痕		本論参照
204		*	1846.03.01	弘化三年二月四日	1	八ツ時過				尾	雷	
205			1848.12.13	嘉永元年十一月十八日	1	夕五半時						
206		*	1849.02.09	嘉永二年一月十七日	1	五ツ時			金玉		春雷	
207		*	1850.08.19	嘉永三年七月十二日	1				三ツに分かれ		雷	
208			1851.11.14	嘉永四年十月廿一日	1	夜五ツ時頃	1			通同行跡同じ色(青)の筋をひき青き事瑠理のごとし		
209			1851.11.15	嘉永四年十月廿二日	1	夕ぐれ之頃						
210			1853.02.10	嘉永六年正月三日	3	暮六ツ過之頃						
211			1853.02.12	嘉永六年正月五日	1	夜五ツ過頃						
212		*	1853.04.25	嘉永六年三月十八日	6	夜五ツ時			茶碗		雷	
213		*	1853.05.23	嘉永六年四月十六日	1	夜			大キサ斗ノ如ク		雷	
214			1853.07.07	嘉永六年六月二日	1	夜九ツ時				形跡尚ほ判然たり		
215			1853.08.06	嘉永六年七月二日	1	夜						
216			1853.08.14	嘉永六年七月十日	1	朝六ツ時						
217			1853.09.21	嘉永六年八月十九日	1	晩						
218			1854.06.10-11	嘉永七年五月十五六日	1	昼頃				赤く見へたり		
219			1854.11.05	嘉永七年九月十五日	1	夕六ツ時前						「其跡左ノ如く相成暫し而終」と記載されているが出典には図は未掲載
220			1854.12.23	嘉永七年十一月四日	1	明卯時			茶釜			
221			1855.06.11	安政二年四月廿七日	1							
222			1855.11.11	安政二年十月二日	1				四斗樽といふもの			

\*「雷」は「雷の如」

注:①近世前のもの(\*印) ②火球であることが不確かなもの(\*印)稲光りの可能性のあるもの(\*\*印) ③音のした記録のあるもの(\*印)

MN	①	②	③	年月日	n	時刻	図n	本体を見たか?	みかけの形や大きさや爆発分裂	尾や痕や色	音	備考
223		*		1856.07.02-07.31	1							現象不詳
				安政三年六月								
224				1856.07.29	2	晩七ツ時			花火のごとく			
225				1856.08.20頃	1	夕飯後			大中小と三つばかりに砕け			
226				1857.07.26	2	夜酉			小星二従ふ			
227				1857.07.27	2	暮六半時前			三ツニ分レ連り首玉大ク後二ツ小也			
228		*		1858.05.18	1	夜九ツ時						鳴動
229				1858.09.20	1							
230		*		1859.10.26-11.23	1	夜の明けざる			二、三尺の玉	暫く竹をむしりとりたるが如き光の山の上に残るを見たり	大なる響	
231				1860.08.21	1	夜						
232				1860.08.27	1	夜四ツ時頃						
233		*		1861.01.02	1	昼四ツ半頃			青キ玉五ツニ相		返雷	
234		*		1861.03.19	1	朝六ツ頃					大筒鉄炮打如	
235		*		1861.03.31	1						雷	
236		*		1861.12.20	4	夜五ツ時頃					鳴動	
237		*	*	1862.06.03	1	昼						不思議なる雷り有[ピンピンヒンヒンヒント]三味線之糸ニかゝる様なる音、雷にあらじ、ひかり物など、虫語
238				1862.11.11	1	夜八ツ半頃	1	不見?		焰哨に火を付た如く老反もめんの長さ程光る物		半時斗有次第ニ白くなり後ニ者不見へ此星消ると其俣東の方ニ又同じき光り物出ル
239				1863.01.08	1	夜四ツ時						
240		*		1864.08.17	1	日暮頃					雷鳴	とりどり評義いたし候へとも、
241		*		1864.08.18	1	日暮頃				飛候跡煙之様跡	雷	
242				1865.01.10	1	日ノ入前						
243				1866.07.01	1	五ツ半過						
244		*		1866.08.04	2	日暮半頃			ちょふちんヨリ少し	青ク中赤ク相見へ		其後地響

\*「雷」は「雷の如く」の意

近世(1600年以降の江戸時代)の火球の暫定個数は237個、その内、火球であることが不確かなものと稲光りの可能性のあるものを除くと218個となる。